

最優秀賞

最優秀賞

ファンから生じたパチンコ革命

デライト・コミュニケーションズ(株) (ピーアークグループ)

東京都足立区

安藤博文

四十歳 (業界の部・ホール)

時は西暦二〇五八年、とある高校の授業風景です。五〇年後の未来から、今後のパチンコパチスロ産業はどのような歩みを示すのか覗いてみましょう。

「キーンコーンカーンコーン……」三限目が始まるチャイムが鳴りました。チャイムの音は二〇五八年になっても変わっておりません。

「おい、みんな着席しろー。授業を始めるぞ。」
日本経済と伝統の授業を担当する先生が教壇から大きな声をはりあげています。数年前までは、生徒の机に埋め込まれたモニター上の映像やプログラムが教師が指導する授業スタイルが主流となっていました。しかし、偏差値の低下が社会的な問題となり、生身の人間が直接教える授業スタイルへのスライドを文科科学省が推し進め、あちこちの学校に教師と生徒という和やかな昔ながらの風景が戻ることになったのです。

「前回に引き続き『国遊』について解説するぞー。今日はパチンコパチスロ産業の歴史だ、ここはテストによく出るからしっかり聞いておくように。教科書一二〇ページを開いて、田中君そのページを読んでください。」

二〇五八年の高校では「日本の伝統」が授業として取り入れられています。およそ伝統に組み入れられるものを学習するわけですが『国技』や『国宝』と同じく『国遊』も貴重な文化的存在として認められておりました。

「はい。パチンコパチスロ産業が日本の『国遊』に認定されたのは二〇四〇年。極めて特徴的で、伝統色の強い遊興と評価されて『カラオケ』に次いで国遊の認定を受けた。それまでのパチンコパチスロの歴史は平坦なものではなかった。三〇兆円産業と呼ばれた第二次ブーム後は縮小の一途をたどっている。」

「はい、ありがとう。そんなパチンコパチスロ産業が『国遊』にまで認定されるのだが、そのきっかけが、このあと説明されている。次は、えーっ、三好さん読んでくれますか。」

「しかし二〇〇八年を境に、加速度的な支持率の回復で再び巨大産業へと成長していく。その発端となる事象は学説によつて様々な意見があるものの、最も有力視されているものは『ファンから生じたパチンコ革新』というものである。当時毎年実施されていた『パチンコ・パチスロ論文コンクール』では、『ファンや業界に従事する人々からたくさんの論文、作文が寄せられ、多くアイデアや強い想いが結集することになる。今後のとるべき指針や業界として進むべきベクトルが自然と示されるものとなり、業界の未来を大きく変えていくものとなった。』

「はい、すっかり読めましたね。さあ、このコンクールをきっかけに様々な変革が行われていくことになるのだが、次のページの解説欄をよーく頭に入れとくよーに。いいかい、先生が読むぞー。」

そう言うて教師はこの時期に生じたいくつかの出来事をわかりやすく説明しました。教科書の解説欄にはこのように書かれています。

「ファンから生じたパチンコ革新の代表的な事象」

ファンの力が生んだ新たな魅力

「遊技機の規格改正」を望むファンの声は多く、署名運動まで行われていた。それは業界諸団体の統合へとつながり、遊技台メーカーや保通協、更には警察庁へ働きかけ、規制をも改正する結果へと導いた。

それを機にファンの声はあらゆるところで反映されるようになる。なかでも、賞品スペースや壁面を使ったアートルーム企画は「無償で出品、玉やメダルで交換」という仕組みが受けて、無名のアーティストにとっては絶好の展示スペースとして重宝された。後に人気を得た画家や陶芸家も少なくない。

さらに、遊技台はこれから売り出す歌手や映画を宣伝する媒体として注目されていった。役物の楽曲や映像が通信にて更新される仕組みや、特賞による最新音楽の無料ダウンロードもファンから生まれた企画だった。

地球環境と地域社会に貢献

このころ地球温暖化対策として、業界も自主基準による推奨室温を定め、全国の店舗にてお客様のご理解とご協力をいただきながら推進された。また「二〇%グリーン化計画」が施され、七年後には駐車場や屋上などでの「緑化の徹底」が評価され、環境省から表彰を受けている。報道にも取り上げられ、社会

最優秀賞

からの多くの称賛を得た。

さらに地域社会への貢献目的で組合費が設定されるようになり「介護センター」「保育園」「学校」などの運営サポートが現在も継続されている。

新たなマーケットの創出でファン拡大

当時、国土交通省は「外国人旅行者訪日促進戦略」の一環としてビジットジャパン・キャンペーンというものを行っていた。団結した組合の勢いはここにも働きかけを行っていた。

パチンコパチスロも日本の観光メニューとして取り上げてもらうことに成功する。外国人の体型を考慮した島構造や、旅行者向けのおみやげとして適した賞品の品揃え、通訳スタッフの待機などが標準化した。

「二〇一〇年までに年間一、〇〇〇万人の訪日外国人誘致」を目標としていた国土交通省のバックアップもあり、約三分の一にあたる三五〇万人がパチンコ店を訪れた記録が残されている。

業界は、外国人観光客という新たな顧客とマーケットを獲得、海外進出が見え始めた。

「とまあ、これらがきっかけで巨大産業へと返り咲いたということだ。いいかー、ここはよく覚えておけよー、業界と国を動かしたのはファンの力」だつてところだ。絶対テストに出るからライン引いとけよー。」

ほのぼのとした近未来の授業風景はいかがでしたでしょうか。パチンコパチスロ業界への強い想いはきつと明るい未来を作り上げていくことでしょうか。

おやつ、説明を終えた先生に生徒が質問しています。

「先生、今のパチンコパチスロ産業のファンはどのくらいいるのですか？」
「んーっと、昨年度のデータバンク調べでは三〇〇〇万人・二〇〇〇万人と発表されている。」

「??？」

「まあー、カジノ産業が登場してからも減ってないのだから、すごい数なんじゃないか。おっと、みんな間違うなよー、三〇〇〇万人が国内、二〇〇〇万人は国外の数な。」

二〇五八年世界中で「アイラブパチンコ」がささやかれています。